

【インターカルチュラル・コミュニケーションの理論と実践】 シラバス抜粋

担当教員／Instructor	西村 謙一
開講区分(開講学期)／Semester	春～夏学期
開講科目名／Course Name	グローバリゼーション論 A / Globalization Studies A
曜日・時限／ Day・Time	水曜5限 / Wednesday 5th period
単位数／Credits	2
講義題目／Course Name	グローバリゼーションと国民国家
授業の目的と概要／Course Objective	本演習はグローバリゼーションのもとで国家や国民の実態及び概念のあり方について、市民社会論やアイデンティティ論、エスニシティ論等を援用しつつ考察する。従来、近代国家は、単一の国民で形成されているとの擬制のもとにあったが、それは必ずしも成立しないと指摘されるようになって久しい。特に、国境を越えた人々の流れが加速化している現在は、国民の実態は複雑さを増している。グローバリゼーション論Aでは理論的枠組を中心に学び、「他者」に向き合う想像力の育成と高度な国際性の涵養するための基盤の形成を目指す。
教科書・教材／Textbooks	授業中に指示する。
参考文献／Reference	授業中に指示する。
特記事項／Special Note	

担当教員／Instructor	西村 謙一
開講区分(開講学期)／Semester	秋～冬学期
開講科目名／Course Name	グローバリゼーション論B/Globalization Studies B
曜日・時限／Day・Time	水曜5限 / Wednesday 5th period
単位数／Credits	2
講義題目／Course Name	グローバリゼーションの中の市民社会
授業の目的と概要／Course Objective	<p>本演習はグローバリゼーションのもとで国家や国民の実態及び概念のあり方について、市民社会論やアイデンティティ論、エスニシティ論等を援用しつつ考察する。従来、近代国家は、単一の国民で形成されているとの擬制のもとにあったが、それは必ずしも成立しないと指摘されるようになって久しい。特に、国境を越えた人々の流れが加速化している現在は、国民の実態は複雑さを増している。グローバリゼーション論Bではグローバリゼーション論Aで学んだ理論的枠組を中もとに、具体的な事例を取り上げて一国内における社会的包摂／排除についての動的な理解を目指す。</p>
教科書・教材／Textbooks	授業中に指示する。
参考文献／Reference	授業中に指示する。
特記事項／Special Note	